預言者のシャマーイル

シリーズ 2

最も愛された衣

預言者 ﷺ のシャマーイル（ティルミズィー第 8〜22 章）：衣服、フッフ、サンダル、指輪、剣、鎧、ターバン、腰布、歩き方、座り方、もたれ方



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranDanSains
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売はできません。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

預言者のシャマーイル

シリーズ 2

最も愛された衣

預言者 ﷺ のシャマーイル（ティルミズィー第 8〜22 章）：衣服、フッフ、サンダル、指輪、剣、鎧、ターバン、腰布、歩き方、座り方、もたれ方

يَٰبَنِيٓ ءَادَمَ قَدۡ أَنزَلۡنَا عَلَيۡكُمۡ لِبَاسٗا يُوَٰرِي سَوۡءَٰتِكُمۡ وَرِيشٗاۖ وَلِبَاسُ ٱلتَّقۡوَىٰ ذَٰلِكَ خَيۡرٞۚ ذَٰلِكَ مِنۡ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ لَعَلَّهُمۡ يَذَّكَّرُونَ

“アーダムの子孫よ，われは，恥ずかしいところを覆い，また飾るために衣装をあなたがたに授けた。だが篤信という衣装こそ最も優れたものである。これはアッラーの印である。恐らくかれらは諭されるであろう。.”

高壁章 7:26

Hj Che Alim Hj Che Haron

quranscience.my | @QuranDanSains

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売はできません。

謝辞

恥ずかしいところを覆い、また飾るために衣装を授け、篤信という衣装こそ最も優れたものとされたアッラーに、すべての称賛あれ。衣服においても装いにおいても質素に生きられた、われらの主人である預言者ムハンマド ﷺ と、そのご家族、そしてその生涯のあらゆる細部を守り伝えた教友たちの上に、祝福と平安あれ。

この電子書籍を、愛する妻

Zaharah Mohd Latif、

愛する子どもたち

Muhammad Hafiz, Noor Hazwani, Abdul Hakim, Noor Hidayah, Nor Aqila と **Nor Atiqah**、

そして義理の息子・娘たち

Fazilah, Malek, Hanin, Fairizal と **Firwan** に捧げます。

『預言者のシャマーイル』の第二巻である本書は、イマーム・ティルミズィーの『シャマーイル・ムハンマディーヤ』の章立てに従い、第 8 章から第 22 章までを扱う。すなわち、衣服、フッフ（革の靴下）、サンダル、指輪、剣、鎧、兜、ターバン、腰布、歩き方、頭巾、座り方、クッション、もたれ方である。各ハディースの判定を明記し、信頼できる伝承を通して彼に倣うことができるよう努めた。

表紙について

本書の表紙には、人間も動物も描かれていない。描かれているのは、柔らかな朝の光の中にある**古い日干しれんがの家の中庭**と、物干し綱に掛けられて風に揺れる**一枚の質素な白い綿の布**、背景のナツメヤシの葉、そして壁際の小さな素焼きの壺である。

アッラーの使徒 ﷺ の衣服は清潔で整っていたが、**質素**であった。カミース、ヒバラ、粗い腰布。そして彼が亡くなったとき、アーイシャ رضى الله عنها はつぎはぎの外衣と粗い腰布を取り出して言った。「**アッラーの使徒 ﷺ の魂は、この二つの中で召された。**」中庭の質素な白い布は、**篤信という衣装こそ最も優れたもの**（高壁章 7:26）であることを思い起こさせる。

下部の**紺色の帯**は**細い金の線**に縁取られ、そこに著者名が記されている。

目次

最も愛された衣 — はじめに

1. イスラームにおける衣服 — 高壁章 7:26、31

2. 第 8 章：その衣服 — 『シャマーイル』55〜71

3. カミース：最も好まれた衣服 — 『シャマーイル』55〜59

4. 新しい衣服を着るときの祈り — 『シャマーイル』61

5. ヒバラと赤い縞の布 — 『シャマーイル』63〜65

6. 白、緑、そして黒 — 『シャマーイル』66〜70

7. 袖の細いビザンツの長衣 — 『シャマーイル』60、71

8. 第 9 章：そのフッフ — 『シャマーイル』72〜73

9. 第 10 章：そのサンダル — 『シャマーイル』74〜79

10. 履物の作法 — 『シャマーイル』80〜85

11. 第 11 章：その指輪 — 『シャマーイル』86〜91

12. アリースの井戸に落ちた指輪 — 『シャマーイル』92〜93

13. 第 12 章：右手の指輪 — 『シャマーイル』94〜102

14. 投げ捨てられた金の指輪 — 『シャマーイル』103

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

15. 第 13 章：その剣 — 『シャマーイル』104〜107

16. 第 14 章：その鎧 — 『シャマーイル』109〜110

17. 第 15 章：その兜 — 『シャマーイル』111〜112

18. 第 16 章：そのターバン — 『シャマーイル』113〜117

19. 第 17 章：その腰布 — 『シャマーイル』118〜121

20. 裾の位置と高慢の危険 — 『シャマーイル』121

21. 第 18 章：その歩き方 — 『シャマーイル』122〜124

22. 第 19 章：その頭巾 — 『シャマーイル』125

23. 第 20 章：その座り方 — 『シャマーイル』126〜128

24. 第 21 章：そのクッション — 『シャマーイル』129〜133

25. 「私はもたれて食べない」 — 『シャマーイル』131〜132

26. 第 22 章：クッション以外にもたれること — 『シャマーイル』134〜135

27. 衣服における質素さ — 振り返り

28. 教訓と結び — 表

参考文献

支援と寄付

色の案内：緑の枠＝クルアーンの節、金色の枠＝ハディース、茶色の枠＝注（弱い伝承または補足説明）、青い表＝比較。青い下線付きの伝承者名をクリックすると、sunnah.com のその伝承者のページが開きます。

最も愛された衣

第一巻では、彼を見た教友たちの言葉を通して、アッラーの使徒 ﷺ の**お姿**を知った。この第二巻は、さらに一歩彼に近づく。**彼が何を着て、どのように歩き、座り、もたれておられたか**である。本書はイマーム・ティルミズィーの『**シャマーイル・ムハンマディーヤ**』第 8 章から第 22 章に従う。

これらの章には、衣服（カミース、ヒバラ、長衣、腰布）、フッフとサンダル、指輪とその刻印、剣、鎧、兜、ターバン、歩き方、頭巾、座り方、クッション、もたれ方についての **77 の伝承**が含まれている。第一巻と同様に、サヒーフとハサンの伝承はハディースの枠で紹介し、弱い伝承は注の枠で説明する。

なぜこのような小さなことが大切なのか。アッラーはアッラーの使徒 ﷺ を、礼拝や崇拝だけでなく、サンダルの履き方、衣服の選び方、集まりでの座り方に至るまで、**生活のすべて**において**立派な模範**とされたからである。こうした小さなことの中にこそ、**質素さ、清潔さ、謙虚さ**についての大きな教えが隠されている。

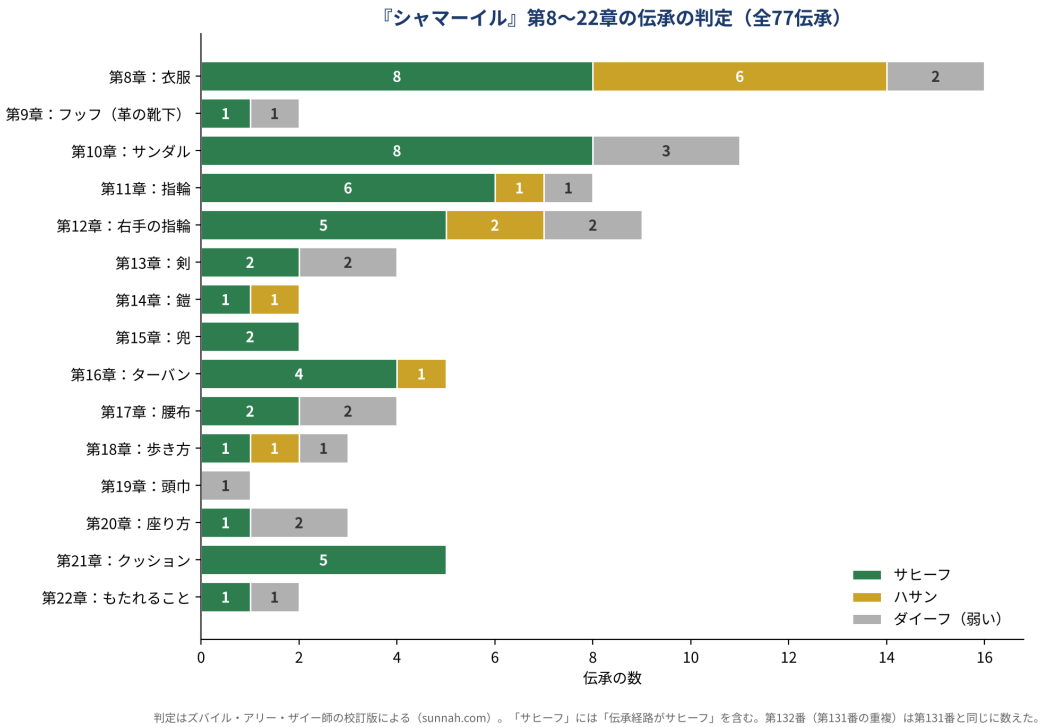


図 1：『シャマーイル』第 8〜22 章の伝承の判定。

注：本書のクルアーンの日本語訳は三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』による。各ハディースの判定は、sunnah.com に示されたズバイル・アリー・ザイー師の校訂版に基づき、それぞれの枠に記した。これらの章の 77 の伝承のうち、およそ 4 分の 3 がサヒーフまたはハサンである。ハディースと本文の日本語訳は著者側で作成したものであり、表現の誤りにお気づきの方はご指摘いただければ幸いである。

イスラームにおける衣服

アッラーの使徒 ﷺ の衣服を見る前に、**イスラームにおける衣服の位置づけ**を理解しておこう。アッラーは衣服を、アーダムの子孫に与えられた大きな恵みの一つとして述べておられる。

高壁章 7:26

يَٰبَنِيٓ ءَادَمَ قَدۡ أَنزَلۡنَا عَلَيۡكُمۡ لِبَاسٗا يُوَٰرِي سَوۡءَٰتِكُمۡ وَرِيشٗاۖ وَلِبَاسُ ٱلتَّقۡوَىٰ ذَٰلِكَ خَيۡرٞۚ ذَٰلِكَ مِنۡ ءَايَٰتِ ٱللَّهِ لَعَلَّهُمۡ يَذَّكَّرُونَ ٢٦

アーダムの子孫よ，われは，恥ずかしいところを覆い，また飾るために衣装をあなたがたに授けた。だが篤信という衣装こそ最も優れたものである。これはアッラーの印である。恐らくかれらは諭されるであろう。

日本語訳：三田了一 — quran.com/7:26

この節は**三種類の衣服**を挙げている。恥ずかしいところを覆う衣服、飾るための衣服、そして**篤信という衣装**である。前の二つは外側の衣服であり、三つ目は心の衣服である。イブン・カスィールは、篤信という衣装とは信仰と善行であり、それこそが最も優れた衣服であると説明している（タフスィール・イブン・カスィール 7:26）。

アッラーはまた、崇拝のときに身なりを整えるよう命じておられる。「**何処のマスジドでも清潔な衣服を体につけなさい**」（高壁章 7:31）— タフスィール・イブン・カスィール 7:31。

アッラーの使徒 ﷺ は、良い衣服を好むことは**高慢ではない**とも説明された。心に塵ほどの高慢がある者は楽園に入らないと言われたとき、ある男が、衣服や履物の良いものを好む人について尋ねた。彼は答えられた。「**アッラーは美しく、美を愛される。高慢とは、真理を退け、人々を見下すことである**」（『サヒーフ・ムスリム』91）。

したがって、イスラームにおける衣服の基準は、高価か安価かではなく、**清潔であること、体を覆うこと、浪費しないこと、高慢でないこと**である。本書を通して、私たちはアッラーの使徒 ﷺ の生活の中にこのことを見ていく。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 8 章：その衣服

『シャマーイル』の第 8 章は「**アッラーの使徒 ﷺ の衣服について伝えられたこと**」と題されている。本書で最も長い章であり、**16 の伝承**を含む。サヒーフが 8、ハサンが 6、弱いものが 2 である（図 1）。

これらの伝承から、彼が身につけた衣服の種類がわかる。**カミース**（袖のある丈の長い縫製のシャツ）、**イザール**（下半身に巻く腰布）、**リダーゥ**（上半身に掛ける布）、**ヒバラ**（縞模様のイエメンの布）、**ブルダ**（厚手の外套）、**ジュッバ**（長衣）、そして**イマーマ**（ターバン）である。その多くは当時のアラブ人の普通の衣服であった。

ここに大切な教えがある。アッラーの使徒 ﷺ は、自分を人々から区別するための**特別な衣服を作らなかった**。シャリーアの条件を守りながら、自分の民が着ているものを着られた。学者たちは、体を覆い、清潔で、他宗教に固有の衣服をまねていない限り、その土地の衣服は許されると結論している。

カミース：最も好まれた衣服

この章の最初の伝承は、家での彼の習慣をよく知る妻、**ウンム・サラマ** رضى الله عنها によるものである。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 55 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ حُمَيْدٍ الرَّازِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا الْفَضْلُ بْنُ مُوسَى، وَأَبُو تُمَيْلَةَ، وَزَيْدُ بْنُ حُبَابٍ، عَنْ عَبْدِ الْمُؤْمِنِ بْنِ خَالِدٍ، عَنْ عَبْدِ اللهِ بْنِ بُرَيْدَةَ، عَنْ أُمِّ سَلَمَةَ، قَالَتْ: كَانَ أَحَبَّ الثِّيَابِ إِلَى رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم الْقَمِيصُ.

日本語訳：

信仰者たちの母ウンム・サラマ رضى الله عنها は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ が最も好まれた衣服は、カミース（丈の長いシャツ）であった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・フマイド・ラーズィー ← ファドル・イブン・ムーサー と アブー・トゥマイラ と ザイド・イブン・フバーブ ← アブドゥルムウミン・イブン・ハーリド ← アブドゥッラー・イブン・ブライダ ← ウンム・サラマ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 55 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1762 番にもある。

判定： ハサン（良好） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ティルミズィーは『ジャーミウ』でハサンと判定した。

ソース：https://sunnah.com/shamail:55

このハディースからの教訓

なぜカミースが好まれたのか。学者たちは、カミースは巻きつける必要のある布よりも**体をよく覆い**、着るのも簡単だからだと説明する。一枚で体全体を覆い、動いてもずれにくい。これは、彼が見栄のためではなく**実用性**によって衣服を選ばれたことを示している。

アスマーゥ・ビント・ヤズィード رضى الله عنها は、彼のカミースの袖の長さについて述べた。「**アッラーの使徒 ﷺ のカミースの袖は手首まであった**」（『シャマーイル』58）— 伝承経路はハサン。長すぎない袖はウドゥーや仕事をしやすくし、高慢な者の衣服のように引きずることもない。

ムアーウィヤ・イブン・クッラは父から、忠誠の誓いに来たとき、**預言者のカミースのボタンが開いていた**ので、手を入れて預言者性の印に触れたと伝えている（『シャマーイル』59）— 伝承経路はサヒーフ。彼のカミースには胸元にボタンがあり、彼は教友たちが近づくことを少しも嫌がらなかったことがわかる。

新しい衣服を着るときの祈り

アッラーの使徒 ﷺ は、どんな恵みも感謝せずに過ぎ去らせることはなかった。新しい衣服を着るときもそうであった。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 61 番

حَدَّثَنَا سُوَيْدُ بْنُ نَصْرٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ اللهِ بْنُ الْمُبَارَكِ، عَنْ سَعِيدِ بْنِ إِيَاسٍ الْجُرَيْرِيِّ، عَنْ أَبِي نَضْرَةَ، عَنْ أَبِي سَعِيدٍ الْخُدْرِيِّ، قَالَ: كَانَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، إِذَا اسْتَجَدَّ ثَوْبًا سَمَّاهُ بِاسْمِهِ عِمَامَةً أَوْ قَمِيصًا أَوْ رِدَاءً، ثُمَّ يَقُولُ: اللَّهُمَّ لَكَ الْحَمْدُ كَمَا كَسَوْتَنِيهِ، أَسْأَلُكَ خَيْرَهُ وَخَيْرَ مَا صُنِعَ لَهُ، وَأَعُوذُ بِكَ مِنْ شَرِّهِ وَشَرِّ مَا صُنِعَ لَهُ.

日本語訳：

アブー・サイード・フドリー رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は新しい衣服を身につけると、ターバン、シャツ、外衣などとその名を言い、こう祈られた。「**アッラーフンマ・ラカ・ル＝ハムド・カマー・カサウタニーヒ、アスアルカ・ハイラフ・ワ・ハイラ・マー・スニア・ラフ、ワ・アウーズ・ビカ・ミン・シャッリヒ・ワ・シャッリ・マー・スニア・ラフ。**」（アッラーよ、これを私に着せてくださったことに、あなたにすべての称賛あれ。私はあなたに、これの良きものと、これが作られた目的の良きものを願い、これの悪しきものと、これが作られた目的の悪しきものからあなたに守りを求めます。）

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：スワイド・イブン・ナスル ← アブドゥッラー・イブン・ムバーラク ← サイード・イブン・イヤース・ジュライリー ← アブー・ナドラ ← アブー・サイード・フドリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 61 番に収録。『スナン・アビー・ダーウード』第 4020 番、『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1767 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ（真正） ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。シャイフ・アルバーニーは『スナン・アビー・ダーウード』でサヒーフと判定した。

ソース：https://sunnah.com/shamail:61

このハディースからの教訓

この祈りには**三つのこと**が含まれている。衣服を与えてくださる方としてのアッラーへの称賛、その衣服の良きものとそれが作られた目的の良きものを願うこと、そしてその悪しきものからの守りを求めることである。衣服の良きものとは服従のために用いられることであり、悪しきものとは高慢、浪費、罪へと導くことである。

また、彼が**衣服の名前を言われた**ことにも注目してほしい。ターバン、シャツ、外衣と。これは、彼が恵みを漠然とではなく、一つ一つ具体的に感謝しておられたことを示している。たとえばイードの日など、子どもたちが新しい服を着るときにこの祈りを教えることは、幼いころから感謝の心を育てる美しい方法である。

この祈りはまた、衣服が**預かりもの（アマーナ）**であることを思い出させる。私たちが身につけるすべての衣服について、どこから得たのか、何のために使ったのかを問われる。合法な財で買い、体を覆いアッラーの恵みを表すという意図で着る衣服は、崇拝となるのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒバラと赤い縞の布

カミースのほかにも、彼が**最も好まれた**衣服として挙げられるものがある。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 63 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا مُعَاذُ بْنُ هِشَامٍ، قَالَ: حَدَّثَنِي أَبِي، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، قَالَ: كَانَ أَحَبَّ الثِّيَابِ إِلَى رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم، يَلْبَسُهُ الْحِبَرَةُ.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は言った。「**アッラーの使徒 ﷺ が着るのに最も好まれた衣服は、ヒバラ（縞模様のイエメンの布）であった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← ムアーズ・イブン・ヒシャーム ← ヒシャーム・ダストゥワーイー（その父） ← カターダ ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 63 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5813 番にもある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも『サヒーフ』に収録した。

ソース：https://sunnah.com/shamail:63

このハディースからの教訓

ウンム・サラマはカミースを、アナスはヒバラを挙げているが、これらはどう調和されるのか。学者たちは、**カミースは衣服の形**であり、**ヒバラは布の種類**であると説明する。彼のカミース自体がヒバラの布で作られていたのかもしれない。あるいは、それぞれの教友が彼の身につけているのを最もよく見たものを挙げたのである。

ヒバラとは、イエメン産の**縞模様**の綿布で、多くは赤か緑であった。だから教友たちは、彼が「**赤いフッラ**」を着ていたと言ったのである。アブー・ジュハイファは「預言者 ﷺ が赤いフッラを着ておられるのを見た。まるで彼のすねの輝きが見える

ようであった」と言い、スフヤーンは「それはヒバラだったと思う」と言った（『シャマーイル』64）— サヒーフ。

バラーゥ・イブン・アーズィブ رضى الله عنهما は言った。「**赤いフッラを着た人で**、アッラーの使徒 ﷺ より美しい人を私は見たことがない」（『シャマーイル』65）— サヒーフ。この言葉は第一巻でも見た。整った衣服は、行き過ぎることなく、着る人に輝きを添えるのである。

注：赤い色について

一部の学者は、いくつかの伝承にもとづいて、男性が**全体が赤い**衣服を着ることを好ましくないとした。そこで彼らは、彼の赤いフッラは全体が赤いのではなく**赤い縞の布**であったとして、証拠を調和させた。これはイブン・カイイムや多くの学者の見解である。赤を無条件に許す学者もいる。これは枝葉の問題における見解の相違である。

出典：

イブン・カイイム『ザード・ル＝マアード』衣服の章、イブン・ハジャル『ファトフ・ル＝バーリー』衣服の書。

白、緑、そして黒

この章の伝承は、彼の衣服のいくつかの色に触れている。アブー・リムサ رضى الله عنه は言った。「**私は預言者 ﷺ が二枚の緑の布をまとっておられるのを見た**」（『シャマーイル』66）— 伝承経路はサヒーフ。

白については、イブン・アッバース رضى الله عنهما が彼の言葉を伝えている。「**白い衣服を着なさい。それはあなたがたの衣服の中で最も良いものの一つである。そして亡くなった人をそれで包みなさい**」（『シャマーイル』68）— 伝承経路はハサン。『ジャーミウ・ティルミズィー』994 にもある（ハサン）。白は清潔さの象徴である。汚れが目立ちやすいので、着る人は常に清潔を保とうとするようになる。

アーイシャ رضى الله عنها は黒について述べた。「**アッラーの使徒 ﷺ はある朝、黒い毛織りの布をまとって出て行かれた**」（『シャマーイル』70）— ハサン。毛織りの布（ミルト）は質素で厚手の衣服で、寒い季節に適していた。第 16 章で見るように、彼は黒いターバンも身につけておられた。

注：色あせたサフラン染めの布（『シャマーイル』67）

カイラ・ビント・マフラマは、預言者 ﷺ がかつてサフランで染められたが色のあせた二枚の古い布をまとっておられるのを見たと言った。この伝承は長い物語の一部である。

その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。しかし、彼が古く質素な衣服を着ておられたという意味は、彼の質素さについてのサヒーフな伝承と一致している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 67 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 https://sunnah.com/shamail:67

この色の多様さは、彼が**一つの色に限っておられなかった**ことを示している。白、緑、黒、そして赤い縞の布を着られた。大切なのは、衣服が清潔で、体を覆い、他の集団に固有の衣服をまねていないことである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

袖の細いビザンツの長衣

ある興味深い伝承は、アラビアの外から来た衣服に対する彼の柔軟さを示している。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 71 番

حَدَّثَنَا يُوسُفُ بْنُ عِيسَى، قَالَ: حَدَّثَنَا وَكِيعٌ، قَالَ: حَدَّثَنَا يُونُسُ بْنُ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنِ الشَّعْبِيِّ، عَنْ عُرْوَةَ بْنِ الْمُغِيرَةِ بْنِ شُعْبَةَ، عَنْ أَبِيهِ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم، لَبِسَ جُبَّةً رُومِيَّةً، ضَيِّقَةَ الْكُمَّيْنِ.

日本語訳：

ウルワ・イブン・ムギーラ・イブン・シュウバは、父 رضى الله عنه から伝えた。「**預言者 ﷺ は、両袖の細いビザンツ（ルーム）の長衣を着ておられた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ユースフ・イブン・イーサー ← ワキーウ ← ユーヌス・イブン・アビー・イスハーク ← アブー・イスハーク・サビーイー（その父） ← シャアビー ← ウルワ・イブン・ムギーラ・イブン・シュウバ ← ムギーラ・イブン・シュウバ（その父） رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 71 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1768 番。似た伝承が『サヒーフ・ブハーリー』第 5798 番にある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。同じ意味の伝承が『サヒーフ・ブハーリー』にある（シャーム産の外衣）。

ソース：https://sunnah.com/shamail:71

このハディースからの教訓

この長衣はムスリムではないビザンツ（ルーム）の人々が作ったものであったが、彼はそれを着られた。学者たちは、清浄であり、その宗教に固有のしるしとなる衣服でない限り、**ムスリムでない人々が作った衣服を着ることは許される**と結論している。『サヒーフ・ブハーリー』では、ムギーラが、彼が**シャーム産の外衣**を着ておられ、袖が細かったので、ウドゥーのために腕を下から出されたと述べている（『サヒーフ・ブハーリー』5798）。

細い袖は**旅と戦い**に適している。彼は状況の必要に応じて衣服を選ばれた。家ではゆったりした服を、旅では動きやすい服を着られたのである。

アナス رضى الله عنه はまた、彼が病気のとき、ウサーマ・イブン・ザイドにもたれて、**粗い綿の布**を体にまとって出て来られ、人々を率いて礼拝されたと述べている（『シャマーイル』60）— サヒーフ。病の中にあっても、彼は質素な衣服のままウンマのもとへ出て来られた。

もう一つの教えがある。彼は、外から来たというだけで有益なものを退けることはされなかった。この原則は知識、技術、技能にも当てはまる。シャリーアに反せず、他宗教のしるしとならない限り、ムスリムは他の文明の成果から益を得てよいのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 9 章：そのフッフ

第 9 章は**フッフ**、すなわち寒いときや旅のときに履く、くるぶしまで覆う革の靴下について述べている。サヒーフな伝承は次のとおりである。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 73 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ زَكَرِيَّا بْنِ أَبِي زَائِدَةَ، عَنِ الْحَسَنِ بْنِ عَيَّاشٍ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنِ الشَّعْبِيِّ، قَالَ: قَالَ الْمُغِيرَةُ بْنُ شُعْبَةَ: أَهْدَى دِحْيَةُ لِلنَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم خُفَّيْنِ، فَلَبِسَهُمَا وَقَالَ إِسْرَائِيلُ: عَنْ جَابِرٍ، عَنْ عَامِرٍ، وَجُبَّةً فَلَبِسَهُمَا حَتَّى تَخَرَّقَا لا يَدْرِي النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم، أَذَكَّى هُمَا أَمْ لا.

日本語訳：

ムギーラ・イブン・シュウバ رضي الله عنه は言った。「**ディフヤが預言者 ﷺ に一足のフッフ（革の靴下）を贈り、彼はそれを履かれた。**」― イスラーイールの伝承では「そして長衣も」とある ―「**彼はそれらが擦り切れるまで履かれたが、その革が屠られた動物のものかどうかはご存じなかった。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← ヤフヤー・イブン・ザカリーヤー・イブン・アビー・ザーイダ ← ハサン・イブン・アイヤーシュ ← アブー・イスハーク・シャイバーニー ← シャアビー ← ムギーラ・イブン・シュウバ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 73 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1769 番にもある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ティルミズィーは、この経路のアブー・イスハークはアブー・イスハーク・シャイバーニーであると説明した。

ソース：https://sunnah.com/shamail:73

このハディースからの教訓

このハディースは、彼が教友ディフヤ・カルビーからの**贈り物を受け取られた**ことを示している。ディフヤは第一巻で出会った教友で、ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ がときに

彼の姿で現れた人である。贈り物を受け取って身につけることは、贈った人の心を喜ばせる彼のやり方であった。

彼はそれを**擦り切れるまで**履かれた。まだ使えるものを捨てなかったのである。そして、その革が屠られた動物のものかどうかを尋ねられなかった。学者たちはここから、**物は本来清浄であると見なされる**こと、反対の証拠がない限りそうであること、そしてなめした革は清浄であることを学んでいる。

このようなフッフから、ウドゥーにおいて**フッフの上をなでる**という規定も生まれた。これは多くの教友が伝えている。特に寒い季節や旅のときに、ウンマにとって物事を容易にする軽減措置（ルフサ）である。

注：ナジャーシーからのフッフ（『シャマーイル』72）

ブライダは、アビシニアの王ナジャーシーが預言者 ﷺ に無地の黒いフッフを一足贈り、彼はそれを履いてウドゥーをし、その上をなでられたと伝えた。

その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。ただしアブー・ダーウードとティルミズィーもこれを伝えており、一部の学者はハサンと判定した。フッフの上をなでる規定そのものは、サヒーフな伝承によって**確立している**。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 72 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 https://sunnah.com/shamail:72

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 10 章：そのサンダル

第 10 章は彼の**サンダル（ナアル）**、すなわち紐のついた革のサンダルについて述べている。アナス رضى الله عنه はアッラーの使徒 ﷺ のサンダルがどのようであったかを尋ねられ、こう答えた。「**二本の紐があった**」（『シャマーイル』74）— 伝承経路はサヒーフ。アブー・フライラも同じことを述べている（『シャマーイル』78）— サヒーフ。

イーサー・イブン・タフマーンは、アナスが**毛のない、二本の紐のあるサンダル**を一足持ち出して見せ、サービトがそれは預言者 ﷺ のサンダルだと教えてくれたと言った（『シャマーイル』76）— 伝承経路はサヒーフ。アナスは彼のサンダルを形見として大切にしていた。教友たちが彼の遺したすべてをどれほど愛していたかがわかる。

ハディース —『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 77 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مُوسَى الأَنْصَارِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا مَعْنٌ، قَالَ: حَدَّثَنَا مَالِكٌ، قَالَ: حَدَّثَنَا سَعِيدُ بْنُ أَبِي سَعِيدٍ الْمَقْبُرِيُّ، عَنْ عُبَيْدِ بْنِ جُرَيْجٍ، أَنَّهُ قَالَ لابْنِ عُمَرَ: رَأَيْتُكَ تَلْبَسُ النِّعَالَ السِّبْتِيَّةَ، قَالَ: إِنِّي رَأَيْتُ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم يَلْبَسُ النِّعَالَ الَّتِي لَيْسَ فِيهَا شَعَرٌ، وَيَتَوَضَّأُ فِيهَا، فَأَنَا أُحِبُّ أَنْ أَلْبَسَهَا.

日本語訳：

ウバイド・イブン・ジュライジュはイブン・ウマル رضى الله عنهما に言った。「あなたはスィブティーヤのサンダル（なめした毛のない牛革のサンダル）を履いていますね。」彼は答えた。「**私はアッラーの使徒 ﷺ が毛のないサンダルを履き、それを履いたままウドゥーをされるのを見た。だから私はそれを履くのが好きなのだ。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イスハーク・イブン・ムーサー・アンサーリー ← マアン・イブン・イーサー ← マーリク・イブン・アナス ← サイード・イブン・アビー・サイード・マクブリー ← ウバイド・イブン・ジュライジュ ← イブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 77 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 166 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも『サヒーフ』に収録した。

ソース：https://sunnah.com/shamail:77

このハディースからの教訓

イブン・ウマル رضى الله عنهما は、サンダルの種類のような小さなことにまで、アッラーの使徒 ﷺ の行いを**最も熱心にまねた**教友として知られていた。彼の答えは簡潔であった。「彼がそれを履いておられるのを見た。だから私はそれを履くのが好きなのだ。」これこそ**従うことで証明される愛**である。

このハディースはまた、彼がそのサンダルを**履いたままウドゥーをされた**ことを示している。スィブティーヤのサンダルは開いているので、履いたまま足を洗うことができたのである。宗教の容易さがここにも表れている。

履物の作法

アッラーの使徒 ﷺ はサンダルを履かれただけでなく、**その履き方の作法**も教えられた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 80 番

حَدَّثَنَا إِسْحَاقُ بْنُ مُوسَى الأَنْصَارِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا مَعْنٌ، قَالَ: حَدَّثَنَا مَالِكٌ، عَنْ أَبِي الزِّنَادِ، عَنِ الأَعْرَجِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، قَالَ: لا يَمْشِيَنَّ أَحَدُكُمْ فِي نَعْلٍ وَاحِدَةٍ، لِيُنْعِلْهُمَا جَمِيعًا، أَوْ لِيُحْفِهِمَا جَمِيعًا.

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**あなたがたの誰も、片方のサンダルだけで歩いてはならない。両方を履くか、両方を脱ぎなさい。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イスハーク・イブン・ムーサー・アンサーリー ← マアン・イブン・イーサー ← マーリク・イブン・アナス ← アブー・ズィナード ← アアラジュ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 80 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5856 番、『サヒーフ・ムスリム』第 2097 番にもある。

判定： 伝承経路はサヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：https://sunnah.com/shamail:80

このハディースからの教訓

なぜ片方のサンダルだけで歩くことが禁じられたのか。学者たちはいくつかの知恵を挙げている。それは**体の均衡を崩し**、つまずく原因になる。二本の足に対して**公平でない**。そして**身なりの整い**に反し、人目を引くことにもなる。イスラームはこのような小さなことにまで心を配っている。

アブー・フライラ رضى الله عنه はまた彼の言葉を伝えている。「**あなたがたの誰かがサンダルを履くときは右から始め、脱ぐときは左から始めなさい**」（『シャマーイル』

83）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』5855 にもある。これは第一巻で学んだ、右から始めるスンナの続きである。

ジャービル رضي الله عنه は、彼が**左手で食べることと、片方のサンダルで歩くことを禁じられた**と伝えている（『シャマーイル』82）— サヒーフ。この二つの禁止が並べて述べられているのは、どちらも日常における**作法と完全さ**に関わるからである。

注：「最初に一つの結び目を作った人」（『シャマーイル』85）

この伝承は、アッラーの使徒 ﷺ、アブー・バクル、ウマルのサンダルには二本の紐があり、最初に一つの結び目を作ったのはウスマーンであったと述べている。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**非常に弱い**ので、根拠にすることはできない。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 85 番 — 伝承経路は非常に弱い。
https://sunnah.com/shamail:85

第 11 章：その指輪

第 11 章はアッラーの使徒 ﷺ の**指輪**について語っている。興味深いことに、この指輪は装飾のためではなく、**イスラームへの呼びかけ（ダアワ）のため**に作られた。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 91 番

حَدَّثَنَا نَصْرُ بْنُ عَلِيٍّ الْجَهْضَمِيُّ أَبُو عَمْرٍو، قَالَ: حَدَّثَنَا نُوحُ بْنُ قَيْسٍ، عَنْ خَالِدِ بْنِ قَيْسٍ، عَنْ قَتَادَةَ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم كَتَبَ إِلَى كِسْرَى وَقَيْصَرَ وَالنَّجَاشِيِّ، فَقِيلَ لَهُ: إِنَّهُمْ لا يَقْبَلُونَ كِتَابًا، إِلا بِخَاتَمٍ، فَصَاغَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، خَاتَمًا حَلْقَتُهُ فِضَّةٌ، وَنُقِشَ فِيهِ: مُحَمَّدٌ رَسُولُ اللهِ.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は伝えた。「**預言者 ﷺ はホスロー、カエサル、ナジャーシーに書簡を送られた。すると『彼らは印の押されていない書簡を受け取りません』と言われた。**そこでアッラーの使徒 ﷺ は、輪が銀でできた指輪を作らせ、**それに『ムハンマド・ラスールッラー（ムハンマドはアッラーの使徒）』と彫られた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ナスル・イブン・アリー・ジャフダミー ← ヌーフ・イブン・カイス ← ハーリド・イブン・カイス ← カターダ ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 91 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5872 番、『サヒーフ・ムスリム』第 2092 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：https://sunnah.com/shamail:91

このハディースからの教訓

フダイビーヤの和約の後、アッラーの使徒 ﷺ は**世界の王たち**、すなわちホスロー（ペルシアの王）、カエサル（ビザンツ皇帝）、ナジャーシー（アビシニアの王）にイスラームへ招く書簡を送られた。彼らは印のない書簡を受け取らなかったので、

彼は印章の指輪を作らせた。これは彼が、ダアワを成功させるために、**相手の慣習や儀礼を考慮された**ことを示している。

アナス رضى الله عنه はその刻印の並びを伝えている。「**『ムハンマド』が一行、『ラスール（使徒）』が一行、『アッラー』が一行**」（『シャマーイル』90）— サヒーフ。学者たちは、それが下から上へと並べられ、敬意のしるしとしてアッラーの御名が**いちばん上**に来るようにされていたと述べている。アナスはまた、「今でも彼の手にあったその指輪の白さが見えるかのようだ」と言った（『シャマーイル』89）— サヒーフ。

その指輪は**石も含めて銀でできていた**（『シャマーイル』88）— サヒーフ。別の伝承では、その石はアビシニア産であったとされる（『シャマーイル』86）— サヒーフ。銀は男性が指輪にすることを許された金属であり、これから見るように、金は禁じられている。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アリースの井戸に落ちた指輪

アッラーの使徒 ﷺ の指輪には、彼の死後の長い物語がある。イブン・ウマル رضي الله عنهما は言った。アッラーの使徒 ﷺ は銀の指輪を作らせ、それは彼の手にあり、次にアブー・バクルの手に、次にウマルの手に、次にウスマーンの手にあったが、**ついにアリースの井戸に落ちてしまった**。その刻印は「ムハンマド・ラスールッラー」であった（『シャマーイル』93）— 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』5879 にもある。

この指輪は三人のカリフの間、**イスラーム国家の公式の印章**となった。ブハーリーの伝承によれば、ウスマーンがアリースの井戸のそばに座って指輪を外し、手でもてあそんでいると、それが落ちてしまった。人々はウスマーンとともに三日間それを探し、井戸の水をくみ出したが、見つからなかった（『サヒーフ・ブハーリー』5879）。

一部の学者は、この出来事をウスマーンの治世における試練の始まりの**しるし**と見た。その後、多くの混乱が起きたからである。しかし、これは一つの思索にすぎず、典拠ではない。確かな教えはこうである。アッラーの使徒 ﷺ が遺した最も尊いものは物ではなく、今日まで守られている**彼のスンナと教え**なのである。

注：トイレで指輪を外すこと（『シャマーイル』92）

アナスは、預言者 ﷺ がトイレに入るとき、指輪を外しておられたと伝えた。アッラーの御名が刻まれていたからである。その伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。それでも多くの学者は、アッラーの御名を敬う作法として、御名が書かれた物をトイレに持ち込まないよう勧めている。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 92 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 https://sunnah.com/shamail:92

第 12 章：右手の指輪

第 12 章は、彼が**どちらの手に**指輪をはめておられたかを論じている。多くの教友が、彼は指輪を**右手に**はめておられたと伝えている。アリー・イブン・アビー・ターリブ（『シャマーイル』94）— ハサン、アブドゥッラー・イブン・ジャアファル（『シャマーイル』97）— サヒーフ、ジャービル・イブン・アブドゥッラー（『シャマーイル』98）— サヒーフ、イブン・アッバース（『シャマーイル』99）— ハサンである。

ハンマード・イブン・サラマは、イブン・アビー・ラーフィウが右手に指輪をはめているのを見て、そのことを尋ねた。イブン・アビー・ラーフィウは、アブドゥッラー・イブン・ジャアファルがそうしているのを見たと言い、アブドゥッラー・イブン・ジャアファルは「アッラーの使徒 ﷺ は右手に指輪をはめておられた」と言った（『シャマーイル』96）— サヒーフ。この連鎖は、**スンナが言葉だけでなく実践によって受け継がれた**ことを示している。

イブン・ウマルは、彼が**指輪の石を手のひらの側に**向けておられたこと、そして他の人が同じ刻印を彫ることを禁じられたことを付け加えている（『シャマーイル』100）— サヒーフ。それはこの指輪が公式の印章だったからである。他の人がその刻印をまねれば、彼の名で偽の書簡が作られかねなかった。

注：右か左か

右手についての伝承のほかに、『サヒーフ・ムスリム』には、彼の指輪が**左手の小指**にあったというサヒーフな伝承もある。ハサンとフサインが左手に指輪をはめていたという『シャマーイル』の伝承（第 101 番）は伝承経路が弱い。学者たちは、**どちらも許される**と結論している。彼はある時は右に、ある時は左にはめておられたのかもしれない。イマーム・ティルミズィーがこの章を設けたのは、右手のほうが多く伝えられていることを示すためである。

出典：

『サヒーフ・ムスリム』衣服と装飾の書、『シャマーイル』94〜102。 https://sunnah.com/shamail:101

どちらの手にはめるにせよ、大切なのは指輪を誇りのしるしとせず、スンナに従う意図で身につけることである。質素な銀の指輪を一つ身につけることは、今日でも男性が実践できる小さなスンナである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

投げ捨てられた金の指輪

この章の最後の伝承は、とても大切な出来事を伝えている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 103 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ عُبَيْدِ اللهِ الْمُحَارِبِيُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ بْنُ أَبِي حَازِمٍ، عَنْ مُوسَى بْنِ عُقْبَةَ، عَنْ نَافِعٍ، عَنِ ابْنِ عُمَرَ، قَالَ: اتَّخَذَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم خَاتَمًا مِنْ ذَهَبٍ، فَكَانَ يَلْبَسُهُ فِي يَمِينِهِ، فَاتَّخَذَ النَّاسُ خَوَاتِيمَ مِنْ ذَهَبٍ فَطَرَحَهُ صلى الله عليه وسلم، وَقَالَ: لا أَلْبَسُهُ أَبَدًا فَطَرَحَ النَّاسُ خَوَاتِيمَهُمْ.

日本語訳：

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った。アッラーの使徒 ﷺ は金の指輪を作らせ、右手にはめておられた。すると人々も金の指輪を作った。**そこで彼 ﷺ はそれを投げ捨てて言われた。「私は決してこれをはめない。」すると人々も自分たちの指輪を投げ捨てた。**

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・ウバイド・ムハーリビー ← アブドゥルアズィーズ・イブン・アビー・ハーズィム ← ムーサー・イブン・ウクバ ← ナーフィウ ← イブン・ウマル رضى الله عنهما。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 103 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5866 番、『サヒーフ・ムスリム』第 2091 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ブハーリーとムスリムも収録した。

ソース：https://sunnah.com/shamail:103

このハディースからの教訓

禁止される前、彼ははじめ金の指輪をはめておられた。その後、それを**投げ捨て**、二度とはめないと誓われた。この出来事と他のハディースから、学者たちは**男性が金を身につけることは禁じられている**と定めた。アリー رضى الله عنه は、アッラーの使徒 ﷺ が絹と金の指輪を身につけることを禁じられたと伝えている（『サヒーフ・ムスリム』2078）。

彼の**模範の力**に注目してほしい。彼が指輪を投げ捨てるやいなや、教友たちはさらなる説明を待つことなく、すぐに自分たちの金の指輪を投げ捨てた。これが**教友たちの従順**である。彼らは彼の言葉に従ったのと同じように、彼の行いにも従ったのである。

このハディースは、指導者、親、教師にも教えている。**人は見たものをまねる**。指導者がぜいたくをすれば、人々もぜいたくをする。指導者が質素であれば、人々も質素を学ぶ。模範は千の助言よりも強い。

彼の**決断の強さ**にも注目しよう。彼は金を好ましくないと言っただけではなく、指輪を投げ捨てて、二度とはめないと誓われた。宗教のことが明らかになったとき、彼はきっぱりと行動され、教友たちもすぐにそれに続いたのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 13 章：その剣

第 13 章はアッラーの使徒 ﷺ の**剣**について述べている。アナス رضى الله عنه は言った。**「アッラーの使徒 ﷺ の剣の柄頭は銀でできていた」**（『シャマーイル』104）— サヒーフ。サイード・イブン・アビー・ル＝ハサン・バスリーも同じことを伝えている（『シャマーイル』105）— サヒーフ。

学者たちはこのハディースから、**武器を少量の銀で飾ることは許される**と学んでいる。剣は宗教とウンマを守るための道具である。それを少し飾ることは、その道具を大切にしていることを示している。

アッラーの使徒 ﷺ は**ウンマを守る覚悟のある**指導者であった。彼は戦いを求めなかったが、攻撃されたときには自ら戦場に出て、最前線に立たれた。教友たちは、戦いが激しくなると、アッラーの使徒 ﷺ の陰に身を寄せたと語っている。

注：剣についての弱い伝承（『シャマーイル』106〜107）

彼がマッカ征服の日、金と銀で飾られた剣を持ってマッカに入られたという伝承（第 106 番）と、イブン・スィーリーンが自分の剣を、アッラーの使徒 ﷺ の剣をまねたというサムラ・イブン・ジュンドゥブの剣に似せて作ったという伝承（第 107 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば、どちらも**伝承経路が弱い**。確かなのは、その柄頭が銀であったことである。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 106〜107 番 — 伝承経路は弱い。
https://sunnah.com/shamail:106

第 14 章：その鎧

第 14 章は、ウフドの日、すなわちスィーラの中でも非常に苦しい日に彼が身につけておられた**鎧**について語っている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 109 番

حَدَّثَنَا أَبُو سَعِيدٍ عَبْدُ اللَّهِ بْنُ سَعِيدٍ الأَشَجُّ، قَالَ: حَدَّثَنَا يُونُسُ بْنُ بُكَيْرٍ، عَنْ مُحَمَّدِ بْنِ إِسْحَاقَ، عَنْ يَحْيَى بْنِ عَبَّادِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ الزُّبَيْرِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ جَدِّهِ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ الزُّبَيْرِ، عَنِ الزُّبَيْرِ بْنِ الْعَوَّامِ، قَالَ: كَانَ عَلَى النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم يَوْمَ أُحُدٍ دِرْعَانِ، فَنَهَضَ إِلَى الصَّخْرَةِ فَلَمْ يَسْتَطِعْ، فَأَقْعَدَ طَلْحَةَ تَحْتَهُ، وَصَعِدَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم حَتَّى اسْتَوَى عَلَى الصَّخْرَةِ، قَالَ: سَمِعْتُ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم، يَقُولُ: أَوْجَبَ طَلْحَةُ.

日本語訳：

ズバイル・イブン・アウワーム رضي الله عنه は言った。「**ウフドの日、預言者 ﷺ は二重の鎖帷子を身につけておられた。**彼は大きな岩に登ろうとされたが、できなかった。そこでタルハを下にかがませ、預言者 ﷺ は岩の上にまっすぐ立たれるまで登られた。」彼は言った。私は預言者 ﷺ がこう言われるのを聞いた。「**タルハは（楽園を）自分のものとした。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：アブー・サイード・アブドゥッラー・イブン・サイード・アシャッジュ ← ユーヌス・イブン・ブカイル ← ムハンマド・イブン・イスハーク ← ヤフヤー・イブン・アッバード ← アッバード・イブン・アブドゥッラー（その父） ← アブドゥッラー・イブン・ズバイル（その祖父） ← ズバイル・イブン・アウワーム رضي الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 109 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1692 番にもある。

判定： ハサン — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：https://sunnah.com/shamail:109

このハディースからの教訓

アッラーの使徒 ﷺ は、アッラーの助けを確信しておられたにもかかわらず、**二重の鎖帷子**を身につけておられた。これは**アッラーへの信頼（タワックル）は努力を否定しない**ことを教えている。信仰者は全力を尽くし、その結果をアッラーに委ねるのである。サーイブ・イブン・ヤズィードも、彼がウフドの日に二枚の鎖帷子を着ておられたと伝えている（『シャマーイル』110）— サヒーフ。

アッラーご自身も、鎧を恵みとして述べておられる。「**暴力からあなたがたを守る衣**」（蜜蜂章 16:81）— タフスィール・イブン・カスィール 16:81。

タルハ・イブン・ウバイディッラー رضى الله عنه の物語は深く心を打つ。彼は傷を負い、二重の鎖帷子で重くなっていたので、タルハが身をかがめて自分を踏み台とし、彼が岩に登れるようにした。この献身のゆえに、彼は言われた。「**タルハは（楽園を）自分のものとした。**」ウフドの日、タルハはまた自分の手で彼をかばい、その手は動かなくなってしまった。

第 15 章：その兜

第 15 章は、マッカ征服の日に彼がマッカに入られたときにかぶっておられた**兜（ミグファル）**について述べている。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 112 番

حَدَّثَنَا عِيسَى بْنُ أَحْمَدَ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ اللهِ بْنُ وَهْبٍ، قَالَ: حَدَّثَنِي مَالِكُ بْنُ أَنَسٍ، عَنِ ابْنِ شِهَابٍ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، دَخَلَ مَكَّةَ عَامَ الْفَتْحِ، وَعَلَى رَأْسِهِ الْمِغْفَرُ، قَالَ: فَلَمَّا نَزَعَهُ جَاءَهُ رَجُلٌ، فَقَالَ لَهُ: ابْنُ خَطَلٍ مُتَعَلِّقٌ بِأَسْتَارِ الْكَعْبَةِ، فَقَالَ: اقْتُلُوهُ، قَالَ ابْنُ شِهَابٍ: وَبَلَغَنِي أَنَّ رَسُولَ اللهِ صلى الله عليه وسلم، لَمْ يَكُنْ يَوْمَئِذٍ مُحْرِمًا.

日本語訳：

アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه は伝えた。「**アッラーの使徒 ﷺ はマッカ征服の年に、頭に兜（ミグファル）をかぶってマッカに入られた。**それを脱がれると、ある男が来て言った。『イブン・ハタルがカアバの覆いにしがみついています。』彼は言われた。『彼を殺せ。』」イブン・シハーブは言った。その日、アッラーの使徒 ﷺ はイフラームの状態ではなかったと私は聞いている。

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：イーサー・イブン・アフマド・アスカラーニー ← アブドゥッラー・イブン・ワフブ ← マーリク・イブン・アナス ← イブン・シハーブ・ズフリー ← アナス・イブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 112 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 1846 番、『サヒーフ・ムスリム』第 1357 番にもある。

判定： サヒーフ、ブハーリーとムスリムの一致（ムッタファク・アライヒ） — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：https://sunnah.com/shamail:112

このハディースからの教訓

このハディースは、**マッカ征服**のとき、戦いが起こる可能性があったため、アッラーの使徒 ﷺ が兜をかぶり、備えを整えてマッカに入られたことを示している。しかしアッラーはほとんど流血なしにマッカを開かれ、彼はよく知られた言葉で、その住民を赦された。

イブン・ハタルは、全体の恩赦から除外された**ごく少数**の一人であった。彼はかつてイスラームに入ったが、自分に仕えていたムスリムを殺し、背教して、アッラーの使徒 ﷺ をののしる詩を作った。その罪は単なる不信仰ではなく、すでに刑が定められていた重大な犯罪であった。

その日、彼が**イフラームの状態ではなかった**というイブン・シハーブの言葉は、一つのフィクフ（法学）上の規定を示している。戦いの必要のためにマッカに入る者は、イフラームをする義務がない。この物語は『預言者のスィーラ』シリーズ（マッカ征服）でさらに詳しく扱った。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 16 章：そのターバン

第 16 章はアッラーの使徒 ﷺ の**ターバン（イマーマ）**について述べている。

ハディース ― 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 113 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَهْدِيٍّ، عَنْ حَمَّادِ بْنِ سَلَمَةَ (ح) حَدَّثَنَا مَحْمُودُ بْنُ غَيْلاَنَ، قَالَ: حَدَّثَنَا وَكِيعٌ، عَنْ حَمَّادِ بْنِ سَلَمَةَ، عَنْ أَبِي الزُّبَيْرِ، عَنْ جَابِرٍ، قَالَ: دَخَلَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم، مَكَّةَ يَوْمَ الْفَتْحِ، وَعَلَيْهِ عِمَامَةٌ سَوْدَاءُ.

日本語訳：

ジャービル رضى الله عنه は言った。「**預言者 ﷺ はマッカ征服の日、黒いターバンを巻いてマッカに入られた。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：ムハンマド・イブン・バッシャール ← アブドゥッラフマーン・イブン・マフディー。別の経路では マフムード・イブン・ガイラーン ← ワキーウ ← いずれも ハンマード・イブン・サラマ ← アブー・ズバイル ← ジャービル・イブン・アブドゥッラー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 113 番に収録。『サヒーフ・ムスリム』第 1358 番にもある。

判定： サヒーフ ― ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ムスリムも『サヒーフ』に収録した。

ソース：https://sunnah.com/shamail:113

このハディースからの教訓

彼がマッカに入られた同じ日について、兜と述べる伝承と黒いターバンと述べる伝承がある。学者たちはこう調和させる。彼は**兜をかぶって入られ**、その後それを**脱いで**、人々に語りかけるときに黒いターバンを巻かれたのである。アムル・イブン・フライスは、父が彼を**黒いターバンを巻いて説教される**姿で見たと述べている（『シャマーイル』115）― 伝承経路はサヒーフ。『サヒーフ・ムスリム』1359 にもある。

イブン・ウマル رضى الله عنهما は言った。「**預言者 ﷺ はターバンを巻かれると、その端を両肩の間に垂らしておられた**」（『シャマーイル』116）— ハサン。『ジャーミウ・ティルミズィー』1736 にもある。イブン・ウマル自身もそうしており、その弟子たちもそれを受け継いだ。

イブン・アッバース رضى الله عنهما は、彼が**ダスマーゥ**、すなわち髪の油のあとがついたターバンを巻いて説教されたと述べている（『シャマーイル』117）— サヒーフ。これは、そのターバンが手つかずの飾りとしてしまわれていたのではなく、ふだんの生活で使われていたことを示している。

注：ターバンを巻くことの規定

学者たちは、ターバンを巻くことが奨励される**崇拝のスンナ**なのか、それとも**慣習のスンナ**、すなわち彼が身につけていたアラブ人のふだんの衣服なのかについて、見解が分かれている。多くの学者はそれを慣習と見ており、彼への愛からそれを巻くのは良いことだが、巻かない人がとがめられることはない。大切なのは、慎み深く、誇ることなく頭を覆うことである。

出典：

イブン・カイイム『ザード・ル＝マアード』衣服の章。

第 17 章：その腰布

第 17 章は彼の**腰布（イザール）**について述べている。最初の伝承は深く心を打つ。

アブー・ブルダは言った。アーイシャ رضى الله عنها は私たちに**つぎはぎの外衣と粗い腰布**を取り出して見せ、こう言った。「**アッラーの使徒 ﷺ の魂は、この二つの中で召された**」（『シャマーイル』118）— サヒーフ。『サヒーフ・ブハーリー』5818 にもある。

想像してほしい。アラビア半島全体に及ぶ国家の指導者であり、戦利品やザカートが集まってきた人が、**つぎはぎの粗い衣服を着て亡くなった**のである。彼は財を他の人々に分け与え、質素に生きることを選ばれた。アーイシャはその衣服を保管し、ウンマが**彼の生活が本当にどのようなものであったか**を知るように、それを見せたのである。

これは、イスラームが粗末な服を着るよう命じているという意味ではない。彼は客を迎えるときやイードの日には良い衣服も着られた。しかし、これは**彼の心がこの世に執着していなかった**ことを教えている。衣服は手段にすぎず、残るのは篤信という衣装である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

裾の位置と高慢の危険

アッラーの使徒 ﷺ は、腰布の**裾がどこにあるべきか**を、ご自身の手で示された。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 121 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا أَبُو الأَحْوَصِ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنْ مُسْلِمِ بْنِ نَذِيرٍ، عَنْ حُذَيْفَةَ بْنِ الْيَمَانِ، قَالَ: أَخَذَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم، بِعَضَلَةِ سَاقِي أَوْ سَاقِهِ، فَقَالَ: هَذَا مَوْضِعُ الإِزَارِ، فَإِنْ أَبَيْتَ فَأَسْفَلَ، فَإِنْ أَبَيْتَ فَلا حَقَّ لِلإِزَارِ فِي الْكَعْبَيْنِ.

日本語訳：

フザイファ・イブン・ヤマーン رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は私のふくらはぎの筋肉 — あるいはご自身のふくらはぎ — をつかんで言われた。「**ここが腰布（イザール）の位置である。それが嫌なら、もう少し下に。それも嫌なら、腰布にはくるぶしまで届く権利はない。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← アブー・アフワス ← アブー・イスハーク・サビーイー ← ムスリム・イブン・ナズィール ← フザイファ・イブン・ヤマーン رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 121 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1783 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。ティルミズィーは『ジャーミウ』でハサン・サヒーフと判定した。

ソース：https://sunnah.com/shamail:121

このハディースからの教訓

このハディースは**三つの位置**を定めている。最も良いのは**ふくらはぎの中ほど**、それが嫌なら**その少し下**、そして禁じられているのは**くるぶしより下**である。彼はふくらはぎをつかんで場所を示すという、とても実際的な方法で教え、迷いが生じないようにされた。

なぜ裾の位置がこれほど大切なのか。当時、**衣服を引きずるほど長くすること**は、高慢な金持ちのしるしだったからである。彼は言われた。**「腰布のうち、くるぶしより下にある部分は火の中にある」**（『サヒーフ・ブハーリー』5787）。また、「アッラーは審判の日、高慢から衣服を引きずる者を見られない」（『サヒーフ・ブハーリー』5784）。

同じハディースの中で、アブー・バクル رضى الله عنه は言った。「私の腰布の片側は、気をつけていないとずり落ちてしまいます。」彼は答えられた。**「あなたは高慢からそうする者ではない」**（『サヒーフ・ブハーリー』5784）。ここから多くの学者は、厳しい警告は**高慢から故意にそうする者**に限られると説明し、他の学者は一般的にも好ましくないとしている。最も安全なのは、彼が示された位置に従うことである。

アッラーは、これらすべての根にある態度についてこう言われる。**「横柄に地上を歩いてはならない」**（ルクマーン章 31:18）— タフスィール・イブン・カスィール 31:18。

注：腰布についての弱い伝承（『シャマーイル』119〜120）

「そのほうがより敬虔で、長持ちする」として後ろから衣服を上げるよう言われ、「あなたには私という模範がないのか」と言われた男の伝承（第 119 番）と、ふくらはぎの中ほどまでの腰布を着けて「私の友（預言者）の腰布はこのようであった」と言ったウスマーンの伝承（第 120 番）は、ズバイル・アリー・ザイーによれば、どちらも**伝承経路が弱い**。その意味は、上に挙げたフザイファのサヒーフなハディースによって支えられている。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 119〜120 番 — 伝承経路は弱い。
https://sunnah.com/shamail:119

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 | ページ：44 / 60

第 18 章：その歩き方

第 18 章は**アッラーの使徒 ﷺ の歩き方**を描いている。最も美しい伝承はアブー・フライラ رضى الله عنه によるものである。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 122 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا ابْنُ لَهِيعَةَ، عَنْ أَبِي يُونُسَ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، قَالَ: وَلا رَأَيْتُ شَيْئًا أَحْسَنَ مِنْ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم كَأَنَّ الشَّمْسَ تَجْرِي فِي وَجْهِهِ، وَمَا رَأَيْتُ أَحَدًا أَسْرَعَ فِي مِشْيَتِهِ مِنْ رَسُولِ اللهِ صلى الله عليه وسلم كَأَنَّمَا الأَرْضُ تُطْوَى لَهُ إِنَّا لَنُجْهِدُ أَنْفُسَنَا وَإِنَّهُ لَغَيْرُ مُكْتَرِثٍ.

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه は言った。「**私はアッラーの使徒 ﷺ より美しいものを見たことがない。まるで太陽がお顔の中を巡っているかのようであった。また、アッラーの使徒 ﷺ より速く歩く人を見たことがない。まるで大地が彼のために畳まれているかのようであった。**私たちは懸命に努めているのに、彼は少しも苦にしておられなかった。」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← イブン・ラヒーア ← アブー・ユーヌス（スライム・イブン・ジュバイル） ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 122 番に収録。『ジャーミウ・ティルミズィー』第 3648 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。

ソース：https://sunnah.com/shamail:122

このハディースからの教訓

アブー・フライラは二つのことを描いている。太陽が巡っているかのように輝く**お顔**と、大地が彼のために畳まれているかのように速い**足取り**である。若い教友たちでさえ、彼について行くには懸命にならなければならなかった。

アリー رضى الله عنه は言った。「**預言者 ﷺ は歩くとき、坂を下るかのように前かがみになられた**」（『シャマーイル』124）— ハサン。このような足取りは、**活力があり目的のある人**の歩き方である。だらしなく足を引きずるのでもなく、威張って歩くのでもない。

この歩き方は、クルアーンに描かれたアッラーのしもべたちの姿と一致している。「**謙虚に地上を歩く者**」（識別章 25:63）— タフスィール・イブン・カスィール 25:63。

学者たちは、**速いことは慌ただしいことではなく、落ち着いていることは遅いことではない**と説明する。彼は力強く速い足取りで、しかも落ち着きと謙虚さに満ちて歩かれた。ルクマーンも息子にこう助言している。「歩き振を穏やかにし」（ルクマーン章 31:19）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 19 章：その頭巾

注：アッラーの使徒 ﷺ の頭巾（『シャマーイル』125）

第 19 章には伝承が一つしかない。アナスは、アッラーの使徒 ﷺ が**よくキナーウ（頭を覆う布）をかぶっておられた**ので、その衣服はまるで油売りの衣服のようであったと言った。

その伝承経路は、伝承者ヤズィード・ラカーシーのため、ズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。しかし『サヒーフ・ブハーリー』には、ヒジュラの日、彼がふだん来ない時刻に、**頭を覆った姿で**（ムタカンニアン）アブー・バクルの家に来られたというサヒーフな伝承がある。

出典：
『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 125 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 https://sunnah.com/shamail:125

キナーウとは、頭と顔の一部を覆う布で、多くは**日差しの暑さ**、ほこり、寒さから身を守るためのものである。ヒジュラの物語では、彼は真昼の暑さの中を出られたので頭を覆われ、また彼を探していた敵に**気づかれないように**もされた（『サヒーフ・ブハーリー』3905）。

イマーム・ティルミズィーは、伝承が弱いにもかかわらずこの章を設けた。当時のハディース学者の方法は、**すべての伝承を伝承経路とともに集め**、読者に判断を委ねることだったからである。私たちは校訂者たちの助けによって、確かなものとそうでないものを区別することができる。これは後の世代にとって大きな恵みである。

この章から、暑さの中や特定の状況で頭を覆うことは**理にかなった行い**であり、彼の衣服は見せるためではなく身を守るために、常に必要に合わせて選ばれていたことがわかる。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 20 章：その座り方

第 20 章は**アッラーの使徒 ﷺ の座り方と横たわり方**を描いている。サヒーフな伝承は次のとおりである。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 127 番

حَدَّثَنَا سَعِيدُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ الْمَخْزُومِيُّ، وَغَيْرُ وَاحِدٍ، قَالُوا: حَدَّثَنَا سُفْيَانُ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، عَنْ عَبَّادِ بْنِ تَمِيمٍ، عَنْ عَمِّهِ، أَنَّهُ رَأَى النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم مُسْتَلْقِيًا فِي الْمَسْجِدِ وَاضِعًا إِحْدَى رِجْلَيْهِ عَلَى الأُخْرَى.

日本語訳：

アッバード・イブン・タミームは、おじ（アブドゥッラー・イブン・ザイド رضى الله عنه）から伝えた。「**彼は、預言者 ﷺ がモスクの中で仰向けに横たわり、片方の足をもう片方の足の上に置いておられるのを見た。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：サイード・イブン・アブドゥッラフマーン・マフズーミー ← スフヤーン・イブン・ウヤイナ ← ズフリー ← アッバード・イブン・タミーム ← アブドゥッラー・イブン・ザイド（そのおじ） رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 127 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 475 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも『サヒーフ』に収録した。

ソース：https://sunnah.com/shamail:127

このハディースからの教訓

このハディースは、彼が**モスクの中でくつろいで休まれた**ことを示している。片方の足をもう片方の上に置き、仰向けに横たわっておられたのである。彼の時代、モスクは礼拝の場であるだけでなく、集まり、学び、休む場でもあった。サイード・イブン・ムサイヤブは、ウマルとウスマーンもそうしていたと述べている（『サヒーフ・ブハーリー』475）。

学者たちはこのハディースを、片方の足をもう片方の上に置いて横たわることを禁じた別のハディース（『サヒーフ・ムスリム』2099）と調和させている。禁止されているのは**体が露わになるおそれがある場合**であり、覆われていれば許されるのである。これは、学者たちが**ハディースを全体として理解する**ことの一例である。

注：謙虚に座ること（『シャマーイル』126、128）

カイラ・ビント・マフラマは、アッラーの使徒 ﷺ がモスクで**深い謙虚さのうちにしゃがんで**座っておられるのを見て、畏れのあまり震えたと述べている（第 126 番）。アブー・サイードは、彼がモスクで両手で膝を抱えて座っておられたと述べている（第 128 番）。

ズバイル・アリー・ザイーによれば、第 126 番は**伝承経路が弱く**、第 128 番は**非常に弱い**。膝を抱えて座ること（イフティバーゥ）自体は、他の伝承で確立している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 126、128 番。 https://sunnah.com/shamail:126

第 21 章：そのクッション

第 21 章は、彼がもたれておられた**クッション**について述べている。ジャービル・イブン・サムラ رضى الله عنه は言った。「**私はアッラーの使徒 ﷺ が左側のクッションにもたれておられるのを見た**」（『シャマーイル』129）— 伝承経路はサヒーフ。

座ってクッションにもたれることは普通のことであり、許されている。しかしこの章のある伝承は、彼がとても大切なことを述べるときに**姿勢を変えられた**ことを示している。アブー・バクラ رضى الله عنه は、彼がこう尋ねられたと伝えている。「大罪の中で最も大きなものをあなたがたに告げようか。」彼らは言った。「はい、アッラーの使徒よ。」彼は言われた。「アッラーに並ぶものを置くこと、そして両親に背くことである」（『シャマーイル』130）— サヒーフ。

それから、もたれておられた彼は**まっすぐに座り直し**、こう言われた。「**そして偽りの言葉、あるいは偽りの証言である。**」彼がそれを繰り返し続けられたので、教友たちは心の中で「もうおやめになればよいのに」と思うほどであった（『サヒーフ・ブハーリー』2654）。

この姿勢の変化は、熟練した教師の**身体の言葉**である。彼は、嘘と偽証の罪がどれほど重いかを示すためにまっすぐ座られた。それはたやすく犯され、軽く見られがちでありながら、正義と人間関係を壊す罪である。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

「私はもたれて食べない」

同じ章に、**食事の作法**についての彼の言葉がある。

ハディース — 『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 131 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، قَالَ: حَدَّثَنَا شَرِيكٌ، عَنْ عَلِيِّ بْنِ الأَقْمَرِ، عَنْ أَبِي جُحَيْفَةَ، قَالَ: قَالَ رَسُولُ اللهِ صلى الله عليه وسلم: أَمَّا أَنَا، فَلا آكُلُ مُتَّكِئًا.

日本語訳：

アブー・ジュハイファ رضى الله عنه は言った。アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「**私はといえば、もたれかかって食べることはしない。**」

伝承経路： イマーム・ティルミズィーの伝承：クタイバ・イブン・サイード ← シャリーク・イブン・アブドゥッラー ← アリー・イブン・アクマル ← アブー・ジュハイファ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 131 番に収録。『サヒーフ・ブハーリー』第 5398 番、『ジャーミウ・ティルミズィー』第 1830 番にもある。

判定： サヒーフ — ズバイル・アリー・ザイー師による『シャマーイル』校訂版での判定。イマーム・ブハーリーも『サヒーフ』に収録した。

ソース：https://sunnah.com/shamail:131

このハディースからの教訓

別の伝承では、彼はそれを二度繰り返された。「私はもたれて食べない。私はもたれて食べない」（『シャマーイル』132）。学者たちは、もたれて食べることは、たくさん長々と食べる**ぜいたくな人々や王たちのやり方**であったと説明する。彼はしもべのように座って食べられたのである。

『シャマーイル』以外の伝承で、彼はこう言われた。「**私はしもべが食べるように食べ、しもべが座るように座る**」（アルバーニーが『スィルスィラ・サヒーハ』第 544 番でサヒーフと判定）。意味は同じで、**日常のことにおける謙虚さ**である。この

食事のスンナについては、イン・シャー・アッラー、彼の飲食についての章で、第三巻でさらに詳しく扱う。

健康の面からも、多くの医療者は、もたれたり横になったりせず**まっすぐ座って食べる**ことを勧めている。消化のためにそのほうが良いからである。もともと作法と謙虚さに関わるこのスンナは、体にとっても良いものなのである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

第 22 章：クッション以外にもたれること

本書の最後の章である第 22 章は、病気のときに彼が**教友にもたれられた**ことを述べている。アナス رضي الله عنه は言った。預言者 ﷺ は病気になり、**ウサーマ・イブン・ザイドにもたれて**、粗い綿の布を体にまとって出て来られ、人々を率いて礼拝された（『シャマーイル』134）— サヒーフ。

これは彼の生涯の**最後の日々**の出来事である。病で弱っていても、彼はなおウンマとともにいるためにモスクへ出ようと努められた。ウサーマ・イブン・ザイドは、彼が解放して愛したザイド・イブン・ハーリサの息子であり、彼がもたれたのはその人であった。

注：ファドル・イブン・アッバースと頭の布（『シャマーイル』135）

ファドル・イブン・アッバースは、アッラーの使徒 ﷺ が亡くなる原因となった病のときに彼のもとを訪ねると、その頭には黄色い布が巻かれていたと語った。彼はファドルに頭を縛るよう頼み、それから彼の肩にもたれてモスクに入られた。

この伝承の伝承経路はズバイル・アリー・ザイーによれば**ダイーフ**である。病のときに彼が頭を布で縛り、家族や教友にもたれられたことは、他のサヒーフな伝承で確立している。

出典：

『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 135 番 — 伝承経路はダイーフ（ズバイル・アリー・ザイー）。 https://sunnah.com/shamail:135

この章から、彼の**謙虚さ**を学ぶ。ウンマの偉大な指導者は、弱ったときに他の人にもたれることを恥とされなかった。また、常に彼の支えとなろうとした**教友たちの誠実さ**も学ぶ。私たちもまた、親や周りの弱い人々の支えとなれますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

衣服における質素さ

本書のすべての伝承を集めると、はっきりとした姿が見えてくる。アッラーの使徒 ﷺ は**清潔に、整えて、質素に**装っておられた。禁欲を見せびらかすためにぼろを着ることもなく、誇るためにぜいたくな服を着ることもなかった。

彼は**名声のための衣服**について警告された。「名声のための衣服（見せびらかすための衣服）を着る者には、アッラーは審判の日に同じような衣服を着せられる」（『スナン・アビー・ダーウード』4029）— ハサン（アルバーニー）。名声のための衣服とは、人々に見られ話題にされるために着る衣服であり、ぜいたくすぎるものも、みすぼらしすぎるものもそれに当たる。

流行が季節ごとに変わり、広告が必要以上に買うよう私たちを促す今日、衣服における彼のスンナはとても身近な意味を持つ。**必要なだけ買い、清潔に保ち、擦り切れるまで着て、一枚一枚に感謝すること**。それこそが祝福をもたらす衣服である。

結局、これらすべてはアッラーの御言葉に帰する。「**本当にアッラーの使徒は，アッラーと終末の日を熱望する者，アッラーを多く唱念する者にとって，立派な模範であった**」（部族連合章 33:21）— タフスィール・イブン・カスィール 33:21。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

『シャマーイル』の第 8〜22 章は、アッラーの使徒 ﷺ の**衣服、装い、そして暮らし方**を私たちに紹介してくれる。最も大切な教訓は次のとおりである。

章	主な教訓
8. 衣服	カミースとヒバラ、新しい衣服の祈り、白い衣服
9〜10. フッフとサンダル	擦り切れるまで使う、右から始める、片方だけで歩かない
11〜12. 指輪	ダアワのための銀の指輪、男性に金は禁止
13〜15. 剣、鎧、兜	努力をともなうタワックル、タルハの献身
16〜17. ターバンと腰布	裾はふくらはぎの中ほど、高慢を避ける
18〜19. 歩き方と頭巾	速く、しかも落ち着いて謙虚な足取り
20〜22. 座り方ともたれ方	もたれて食べない、教師の身体の言葉

私たちへのメッセージ

私たちの衣服も、スンナに従い、体を覆い、感謝するという意図で着るなら、崇拝となりうる。しかしアッラーの御言葉を忘れてはならない。**篤信という衣装こそ最も優れたもの**である。アッラーが、この世では篤信という衣装で、来世では楽園の衣服で、私たちを飾ってくださいますように。

イン・シャー・アッラー、本シリーズは**『預言者 ﷺ のシャマーイル』第三巻**へと続く。その食べ方と飲み方、好まれた食べ物と飲み物、香り、話し方、笑い方、冗談の言い方など、『シャマーイル』の続く章である。アッラーこそが最もよくご存じである。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参考文献

クルアーンとタフスィール

『聖クルアーン』ウスマーン版本文、三田了一訳『日亜対訳 聖クルアーン』。https://quran.com

イブン・カスィール『タフスィール・クルアーン・アズィーム』（高壁章 7:26、31、蜜蜂章 16:81、識別章 25:63、ルクマーン章 31:18、部族連合章 33:21）。https://tafsir.app/ibn-katheer/7/26

『シャマーイル』とその注釈

ティルミズィー『シャマーイル・ムハンマディーヤ』第 8〜22 章（ハディース第 55〜135 番）、ズバイル・アリー・ザイーの判定付き。https://sunnah.com/shamail

ムッラー・アリー・カーリー『ジャムウ・ル＝ワサーイル・フィー・シャルフ・ッ＝シャマーイル』、イブラーヒーム・バージューリー『マワーヒブ・ラドゥニーヤ・アラー・ッ＝シャマーイル・ル＝ムハンマディーヤ』。

イブン・カイイム『ザード・ル＝マアード』預言者 ﷺ の衣服の章。

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』166、475、1846、2654、3905、5784、5787、5798、5813、5818、5855、5856、5866、5872、5879。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』91、1357、1358、1359、2078、2091、2092、2095、2097、2099。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・ティルミズィー』994、1692、1736、1762、1767、1768、1769、1783、1830、3648、『スナン・アビー・ダーウード』4020、4029。https://sunnah.com

一般史

Wikipedia, “Al-Tirmidhi”. https://en.wikipedia.org/wiki/Al-Tirmidhi

Wikipedia, “Shama’il Muhammadiyah”. https://en.wikipedia.org/wiki/Shama%27il_Muhammadiyah

支援と寄付

この電子書籍は、ムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売されるものではありません。**研究、ウェブサイト quranscience.my の運営、今後の電子書籍の出版の費用のためのご寄付を心より歓迎いたします。ただし寄付は**義務ではありません。**アッラーがすべてのご寄付を、絶えることのない施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば，ちょうど 1 粒が 7 穂を付け，1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に，倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

日本語訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。「本当にわたしの主は，そのしもべの中から御心に適う者に，御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。」

日本語訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒ﷺは言われた。「施しは財産を減らさない。アッラーは、赦す僕に尊厳しか増し加えられない。そして、アッラーのためにへりくだる者は誰であれ、アッラーがその位を高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・イブン・アイユーブ, クタイバ・イブン・サイード と アリー・イブン・フジュル ← イスマーイール・イブン・ジャアファル ← アラーゥ・イブン・アブドゥッラフマーン ← その父 アブドゥッラフマーン・イブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه .

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・礼儀の書（キターブ・ル＝ビッル・ワ・ッ＝スィラ・ワ・ル＝アダブ）、赦しと謙虚さの奨励の章、ハディース第 2588 番。

判定： サヒーフ ― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

ソース：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

日本語訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によると、アッラーの使徒ﷺは言われた。「人が死ぬと、その行いは途絶える。ただし三つを除いて。絶えることのない施し、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・イブン・アイユーブ, クタイバ・イブン・サイード と アリー・イブン・フジュル ← イスマーイール・イブン・ジャアファル ← アラーゥ・イブン・アブドゥッラフマーン ← その父 アブドゥッラフマーン・イブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه .

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書（キターブ・ル＝ワスィーヤ）、死後に人に届く報いの章、ハディース第 1631 番。

判定： サヒーフ ― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

ソース：https://sunnah.com/muslim:1631

Jazakumullahu Khairan Kathira



上の QR コード（DuitNow、マレーシア）を読み取ってご寄付ください。



海外からのご寄付：DONATE ボタンをクリックするか、次をご覧ください
paypal.me/quranscience